



資材部 林 正太

挑戦の日々が幕を開ける

「うちの会社で一緒に働かない？」
高橋や千葉からそんな打診を受けるようになったが、当初は「冗談だろう」と思っていたという。しかし日を追うごとに、話はどうも具体的にになっていく。時に杯を交わしながら未来について語り合うのは、心から楽しく充実したひとときだった。

「うちをこんな会社にしたかったら、ぜひ手伝ってほしいんだ。」
そう言われ、「どうやら冗談ではないようだ」と気づいた時には、最初に打診を受けてから半年ほどが経っていた。林は首を縦に振り、活躍の場を移すことを決意した。さらなる成長に向けて新たな挑戦に臨みたかったこともあり、高橋や千葉の人間性に強く心を惹かれていたからだ。こうして林はさくらの一員として、次の一步を踏み出したのである。

しかし、待ち受けていた道のりは平坦なものではなかった。入社して最初に担当した現場で、さっそく壁に直面した。現場全体の母体となる建築工事に遅れが生じ、現場に入れたのは、なんと当初の予定から2か月が経ってから。それにもかかわらず納期に変更はなく、本来4か月で行う工事を2か月で終わらせなければならなくなったのだ。常務の寺澤の指揮のもと、張りつめた雰囲気では現場は動き出した。林は前職で培った知識や経験、人脈を存分に活かして資材の手に配に尽力。実際に作業にあたるメンバーたちと全員で力を合わせ、全工程が無事に終了したときの達成感は、今でも鮮やかに心に焼きついている。

一見すると成功体験に思えるこの現場だが、実は失敗談もあった。必要資材の拾い出しに着手して間もなく、一部の材料が受注生産で

2022年10月にさくら株式会社に入社し、現在は資材部で活躍中の林正太。現場に必要な資材の調達、見積もり作成、現場管理のサポートと、その業務は多岐にわたる。前職ではトップセールスに輝いた林が、その栄光を手放してさくらに移った経緯とは。すべてのはじまりは、とある宴席での出来事だった。

心を打った、あたたかな人柄

さくらとの出会いは、2017年頃にまでさかのぼる。建設資材を取り扱う会社で営業活動に携わっていた林は、ある日、取引先の忘年会に出席した。宴は大いに盛り上がり、会場には笑い声が溢れていた。「二次会に行こう！」と皆が移動をはじめたとき、林はふと足を止める。酔いつぶれてうまくまわっている出席者に気づいたのだ。

あることが判明したのである。「材料の納品を待っていたら、現場の納期にはとても間に合わない！」
真つ青になり、冷や汗がとめどなく流れる。寺澤がお客様と交渉してくれた結果、別の材料への変更が決まったときにはほっと胸を撫でおろしたという。早め早めに確認する重要性を、改めて痛感した出来事だ。

それぞれの現場に深く関われる喜び

「さくらに入社したことで、前職で自分が販売していた商品が実際どのように使われるのかがわかり、とても新鮮な気持ちになりました。」
一つひとつの現場のスタートからゴールまで関われることができる日々は、売り上げ至上主義でノルマに追われるように走り抜けてきた前職とは、一味違った奥深さがある。

「大丈夫ですか？ よかったら肩を貸しますよ。」
見ず知らずの人物ではあったが、放つてはおけずに思わずその声をかけた。親身になって介抱する林の姿を見ていたのが、他ならぬさくらの社長である高橋和義だったのだ。その優しさに心を打たれた高橋からのアプローチにより、さくらとの取引引きがはじまったのである。

トップセールスの座を辞し、さくらへ

こうして取引先となり、主にやり取りをする相手となったのは、専務の千葉だった。確かな仕事ぶりであったという間に信頼関係を築くと、「この現場は全部任せるよ」という言葉をかけられるケースが増え、林の売り上げは右肩上がりに伸びていく。営業成績トップの座に躍り出るまでに、長い時間はかからなかった。

さくらという新たな場所で、前進を続ける林。その胸に抱く仕事への思いとは。

(後編に続く)



企業情報

設立年：2012年4月
年商：11.6億円
※ 2022年3月決算時点



おかえりなさい!

藤原さん

一度はさくらを離れ、子育てに専念していた藤原さん。離れたからこそわかるさくらの良さについてお話を伺いました!

現在の業務内容

入社や社会保険の手続き、助成金関係、新人教育、社長のサポート、事務全般を行っています。社内報の担当もさせていただくことになりました。

さくらに戻ってきた理由

尊敬する社長のもとで働きたいと思った

退職後は出産・子育てに専念していましたが、2021年10月に再入社させていただきました。娘は4歳になり、夫と母の協力のおかげで何とか仕事と両立することができています。急なお休みをいただくこともあり、皆さんにもご迷惑をおかけしてしまうこともありますが、いつもご理解いただきありがとうございます。さくらに戻ってきた理由は、また社長のもとで働きたいと思ったから。社長とは、10代からの知己になります。友人とも家族とも違う言いがたい存在ですが、根底にあるのは尊敬の念です。



メッセージ

無理なお願いにも笑顔で対応していただき、いつもありがとうございます。嫌な顔をせず協力して下さるので感謝しています!

社内報に対する意気込み

取材の依頼をさせていただくこともあると思いますが、その際はご協力をお願いします!

総務部 主任
ふじ わら ち え
藤原 知恵さん

さくらの良いところ

愛情深い経営層&温かい社員

さくらの魅力は、人だと思えます。特に社長、専務、常務は、さすが会社を背負うトップ!少々言葉が悪いところもありますが(笑)、昔から面倒見がよくて優しいお三方のことが大好きです。困っているときに助けてくれたり、声をかけてくれたりと、皆さんとても愛情深い方々です。

社員の皆さんも温かい方が多いと思います。帰ってきたときも、「おかえり」と温かく迎えてくださりました。



今回の現場は、新設の現場であったため、ものづくりなど一から担当!そのため、念入りに打ち合わせが必要であった。しかし、元請けが全員「スペイン人」。言葉の壁にぶつかる八巻さん……。一体どのように工夫をし、作業に取り組んでいるのか必見です!

現場紹介

杜の都バイオマス



プラント事業部2課 係長
や まき まこと
八巻 誠さん



現場の概要

- 現場名** 杜の都バイオマス
- 作業内容** 燃料エリアの電気ラックのサポートの取り付け、配管サポートの取り付け、配管の取り付け
- 工期** 2022年8月頃~2023年8月中旬終了予定
現場で必要なものを作り、その後現場入り。
- 担当人数** 4~5名

元請けが全員スペイン人!?

▶「言葉の壁」に立ち向かう

現場で最も大変なことは、言葉の壁があるなかで作業を進めていかなければならないことです。通訳の方はいるのですが、言葉の壁により、細かい部分の確認やニュアンスがうまく伝わらず苦労しました。そのため、普段はスムーズに進めることができる部分も、その言葉の壁により時間がかかってしまうことも。また、仕方のないことではありますが、仕事に対するの価値観やスタンスに違いもあったことも苦労していることの一つです。

それでもいい仕事したい!

▶大変なときこそ前のめりに

このようにいつも通りに進めることができない現場こそ、「前のめりな姿勢が必要である」と考え、さくら株式会社としては、どのように作業を進めていきたいのかをしっかりと伝えるようにしています。それからは、うまく意思疎通ができるようになりました。

今回の現場での学び

▶環境に言い訳せず、工夫をやめないこと

「いつもとは違う環境のなかでどのように仕事をするか」について考え続けることができたと思います。言葉の壁により時間がかかってしまうこともあります。工夫し、一緒に現場で働くメンバーが手持ち無沙汰にならないよう考えたり、また他の業者の現場・作業も把握し、次に何をすべきかと考えたりして作業をしています。



意気込み

一緒に現場を担当している皆さん、いつもありがとうございます!無事故で進めることができているので、現場が終わるまで0災害で皆さんと一緒に笑顔で終われたらいいなと思っています!